

みんなで築こう！協働関係

日常から話し合える環境に必要なこと

特集にあたって

日々みんなで築く協働関係

看護職の倫理綱領には「看護職は、多職種で協働し、看護及び医療の受け手である人々に対して最善を尽くすことを共通の価値として行動する」とある¹⁾。日本看護協会は、2025年に向けた「看護の将来ビジョン」を社会全体に広く伝えるために、タグライン・スタートメント「生きるを、ともに、つくる。」を発表した²⁾。筆者らが目指す「みんなで築く協働関係」もまさにこれではないかと思っている。看護師一人では、子どもに最善のケアを提供することはできない。看護師同士はもちろんのこと、医師、子ども、家族、医療の職種を超えて、教育者、法律家、ときには癒しを得るために動物の力も借りながら、手を取り合い、お互いを認め合い、子どもの最善を考え「生きるを、ともに、つくる」のである。しかし、「最善」とはそれぞれの価値観により異なる。そこで多職種で協働するためには、それぞれが自分の考えを自由に話し合える環境が必要となる。環境は物理的環境もあるが、とくに協働に重要なのは人的環境である。

医療者とのカンファレンスに参加した母親は、「話し合うことはとても大切だと思いました。しかし、カンファレンスがより実あるものになるには、日常のなかでの医療職の真摯な姿勢や対応、医療職と家族がコミュニケーションをうまくとり、信頼関係が築けていることも大事だと感じました」としている³⁾。物理的な環境として、家族と医療者のカンファレンスがあるということは必要なことである。しかしカンファレンスの場を提供すれば、話し合いができるわけではないし、家族の意向を尊重していることにはならない。そこには、日常からの医療者一人ひとりの態度、真摯な姿勢、対応から築かれる信頼関係が必要なのである。小児医療の場に思いやりの文化、医療者の信頼関係

がなければ、子どもや家族と良好なコミュニケーションをとることはできない。それは、突然できるものではなく、それぞれの医療者が日々お互いを気づかい、認め合い、創り上げていくものである。

そこで本特集では、日常から話し合える環境を創るために、それぞれの立場でどのようにして協働関係を築いているかについてまとめることとした。巻頭カラーグラフでは「ファシリテッドッグとの協働」を取り上げた。また幅広い知識を得るために、医療者だけではなく、倫理学の専門家から、倫理コンサルテーションにおける協働について解説していただいている。そして何よりも大切な、ケアの受け手である子どもの立場、家族の立場から、医療者との協働について執筆いただいた。

臨床の場に話し合える環境を整えるには、日常からの医療者同士、医療者と子ども・家族との協働関係が何より必要であると考えている。本特集が臨床の場で、協働関係が築ける一助になることを願っている。

【文献】

- 1) 日本看護協会：看護職の倫理綱領。2021。
https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/pdf/code_of_ethics.pdf (2022年10月6日 最終アクセス)
- 2) 日本看護協会：日本看護協会タグライン・ステートメント。
<https://www.nurse.or.jp/home/about/tagline/index.html> (2022年10月6日 最終アクセス)
- 3) 柴崎淳，正木沙苗，河野良介，他：重篤な疾患をもつ子どもの治療選択に関する家族との話し合い。小児看護 41(6)：695-703，2018。

井上みゆき Inoue Miyuki
和歌山県立医科大学保健看護学部教授